

令和４年度
自然資源を活かすエコツーリズム・
インタープリテーションの
人材育成支援事業

参加地域	募集要項
------	------

募集期間：令和４年９月２日（金）～１０月２日（日）必着

令和４年９月

環 境 省

本研修は環境省の業務で、公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）と一般社団法人日本エコツーリズム協会（JES）が実施します。

I. 本事業について

1. 背景

日本は豊かな自然や多様な文化の魅力にあふれています。

国を挙げて、地方創生やインバウンド対策に取り組んでいこうとしている今、こうした魅力を大切にしながら、上手に伝え、活かすことで、地域における体験の機会や質を向上させ、訪れる人や滞在時間を増やし、地域での雇用や活性化、持続可能な地域振興に結びつけていくことが、大いに望まれています。

こうしたことを、継続的な取組とし、着実に実現していくためには、日本の豊かな自然やそれらに裏打ちされた多様な文化の魅力や価値を上手に引き出し、伝え、豊かな体験を提供する人材を育成するとともに、そうした人材が活躍できる地域の仕組みや体制をしっかりと構築していくことが最も重要だと考えています。

2. 目的

本事業は、国立公園をはじめとした自然公園地域やエコツーリズムに取り組む地域など、自然資源を活用して地域活性化に取り組む地域（以下、「自然地域」という。）を対象に、国内外のニーズも踏まえながら、ビジターセンターなどの拠点施設のスタッフや体験プログラム、エコツアーなどを企画・実施する事業者やガイド、コーディネーターなど、地域における持続可能な仕組み構築に向けたキーマンとなる人材の育成支援を行うものです。

なお、募集対象は、地域全体での継続的な取り組みとなるよう、複数の関係者からなる「チーム」といたします。

事務局（問い合わせ・応募先）

A コース 公益社団法人 日本環境教育フォーラム （担当：小堀）

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1 階

電 話：03-5834-2897 E-mail：kobori@jeef.or.jp

ホームページ：<http://www.jeef.or.jp>

B コース 一般社団法人 日本エコツーリズム協会 （担当：坪根）

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケイビル 3F

電 話：03-5437-3080 E-mail：tsubone@ecotourism.gr.jp

ホームページ：<https://ecotourism.gr.jp>

主催

環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室

担当：江澤 電 話：03-5521-8271（直通）

3. 事業内容

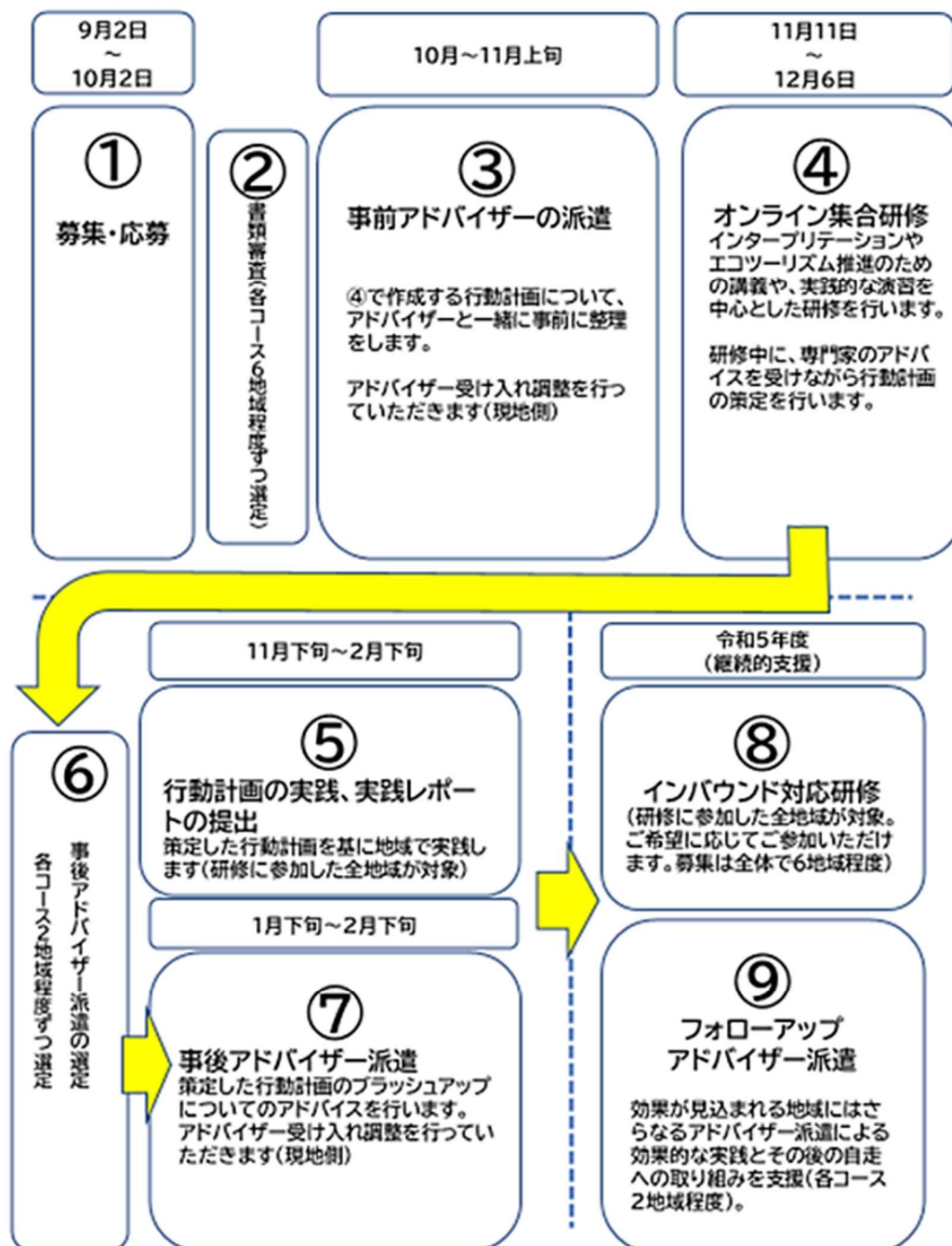
(1) コース設定・募集対象について

- 本事業は、AコースとBコースの2つを設定しています。応募時は、どちらかを選択してください。
 なおオンラインの利点を活かし、コース別に開催される研修は、オブザーバー参加が可能です。
- 募集対象は、本事業終了後も、具体的な数値目標を定め、意欲をもって地域で一体となって自走する仕組みを構築し、継続的に取り組みを行っていただける地域です。なお、研修終了後は、取り組み状況やその効果などについてご報告頂き、本事業の評価にご協力いただきます。
- 応募は、複数の関係者からなる「チーム」（2～3 人程度を想定）とします。施設スタッフやエコツアー事業者として働いている（もしくは働くことが予定されている）者及び、行政や観光協会やDMO の職員など、事業者等をサポートする側の者がご参加ください。（サポート側のメンバーの参加は必須ではありませんが、研修に参加できるチームを優先的に採択します）

コース		A コース「 <u>拠点施設で働く人向け</u> 」	B コース「 <u>エコツアー事業者向け</u> 」
対象		主にビジターセンター、自然系博物館、自然学校の他、宿泊施設や観光施設の職員など、 <u>拠点施設で働く人</u>	主に、地域で活動するアクティビティ事業者、エコツアー事業者、エコツアーガイド、地域コーディネーター等
目的		インタープリテーションは、自然地域等における教育的なサービスです。地域でインタープリテーションを充実させていくためには、ガイド、案内施設の職員、観光事業者、展示等の包括的な関りが重要です。それらを包括的に考えるインタープリテーション全体計画の作成を学びます。	エコツーリズムを活かして地域を盛り上げるために、ツアーガイドや地域コーディネーターとしての能力向上を目指す。
事業終了後の到達目標		○インタープリテーションの考え方を理解している ○来訪者に対するコミュニケーションの基本的な考え方を理解している ○インタープリテーション全体計画作成のための考え方を理解している	○地域におけるガイド事業者の役割や、エコツーリズムを活かした地域づくりのための仕組みや体制づくりの基本的考え方、そのための地域コーディネーターの役割を理解している ○エコツーリズムを核としたツアープログラムの企画・実施や事業経営していくための基本的な考え方を理解している
募集 チーム 構成員 (2～3 人)	スタッフ 事業者側	主にビジターセンター、自然系博物館、自然学校、宿泊施設、観光施設の職員など、 <u>拠点施設で働き、主にお客様に対する解説・案内業務に従事している者で、更なる能力向上と地域全体での取り組みに意欲がある者</u>	主に、地域で活動するアクティビティ事業者、 <u>エコツアー事業者、エコツアーガイド、地域コーディネーター等としてプロ（もしくはプロを目指して）活動をしている者で、更なる能力向上と地域全体での取り組みに意欲がある者</u>
	サポート 側	+ 行政担当者、観光協会、DMO や商工会の職員など	

(2) 全体の流れについて

人材育成支援事業 全体の流れ



※令和5年度の事業内容については、令和5年度の予算成立等に応じて、内容等変更となる可能性があります。

事業全体のスケジュール

事業の流れ	時期の目安	概要
① 参加地域（チーム）の募集、受付	令和4年 9月2日（金）～ 10月2日（日）	A・B各コースは6地域程度ずつ、両コース合計で12地域程度を募集します。
② 書類審査	10月上旬	【各コース6地域程度、計12地域程度を選定】 参加地域（チーム）の応募フォームの記載内容を踏まえ、本事業での支援が効果的か、継続性、具体性、連携性、発展性、将来性、先進性があるか、などの観点により審査・選定を行います。
③ 事前アドバイザー派遣	10月上旬～11月 10日（木）	【各コース6地域程度、計12地域程度に派遣】 参加地域（チーム）へアドバイザーを1名派遣（2泊3日程度を想定）します。地域の課題把握や整理等のアドバイスを行い、集合研修への参加準備を支援します。なお、事前アドバイザー派遣は、事務局より参加チームにヒアリングを行い、派遣するアドバイザー（後述）とのマッチングをします。参加地域（チーム）には、地域の関係者の参集や、現地のご案内等の調整をお願いします。
④ オンライン集合研修	11月11日（金）～ 12月6日（火）	【各コース6地域程度、計12地域程度が参加】 3回のオンライン集合日、動画教材の視聴、講師によるカウンセリング等を通して、行動計画を作成します。最終日は、行動計画の発表を行います。 11月11日（金）～11月15日（火） 事前学習期間（動画視聴） 11月16日（水）13：00～18：00 オンライン全体集合日（1） A・Bコース 11月17日（木）～11月20日（日） 自主学習期間（動画視聴） 11月21日（月）9：00～17：00 Bコースオンライン集合日 11月22日（火）9：00～17：00 Aコースオンライン集合日 11月23日（水）～12月5日（月） 個別カウンセリング 行動計画作成、発表準備期間 12月6日（火）10：00～18：00 オンライン全体集合日（2） A・Bコース
⑤ 行動計画の実践	12月上旬～2月下旬	作成した行動計画を実践します。参加地域（チーム）には、その後の取り組み状況等も踏まえ、実践した上での感想や課題、今後の取組等のレポートを提出していただきます。
⑥ 事後アドバイザー派遣の選定	12月上旬～2月下旬	【各コース2地域程度、計4地域程度を選定】 集合研修の参加状況や、作成した行動計画等を踏まえ、2回目のアドバイザー派遣先を選定します。
⑦ 事後アドバイザー派遣の実施	令和5年1月下旬 ～2月中旬	【各コース2地域程度、計4地域程度に派遣】 アドバイザーが、行動計画のブラッシュアップや行動計画の実践に向けたアドバイスを行います。

⑧ 継続的支援 インバウンド対応研修	令和5年度上期	【これまでの参加地域が対象。募集は全体で6地域程度の予定】 外国人観光客（インバウンド旅行者）の受け入れや、対応ができるようになるためのオンライン研修を行います
⑨ 継続的支援 フォローアップ アドバイザー派遣	令和5年度中	【各コース2地域程度、計4地域程度の予定】 具体的な効果が見込まれる地域については、具体的な数値目標を定めて実践しながら、フォローアップ終了後は自走することを目的に、令和5年度内にアドバイザーを1回程度派遣します（オンライン開催場合があります）。

※令和5年度の事業内容については、令和5年度予算の成立等に応じて、内容等が変更となる可能性があります。

(3) 補足事項

●アドバイザー派遣について

○派遣にかかる経費

派遣するアドバイザーの旅費（現地までの交通費、現地での宿泊費。2泊3日分を想定）及び謝金は、環境省（事務局）が負担します。その他の費用（現地での移動費用、施設利用料、入場料、その他アドバイスの実施にあたって現地で発生した費用等）は、参加地域（チーム）にてご負担願います。

○その他

アドバイザー派遣には、原則として主催者及び事務局は同行しません。派遣地域においては、参加地域（応募チーム）が、アドバイザーの現地での移動の同行や、説明等の対応をお願いします。

○派遣アドバイザー（予定）

コース	アドバイザー	所属	活動・主な専門分野	具体的な得意分野
A	川嶋 直	（公社）日本環境教育フォーラム 主席研究員	インタープリテーション関連	特にインタープリテーションの手法、人材育成、研修設計など。
A	鳥屋尾 健	（公財）キープ協会環境教育事業部 事業部長	インタープリテーション関連	特に施設運営、展示、人材育成、団体対応など。
A	西村 仁志	広島修道大学 教授	インタープリテーション関連	特に地域連携、人材育成、社会企業など。
A	古瀬 浩史	帝京科学大学 教授 （一社）日本インタープリテーション協会 代表理事	インタープリテーション関連	特に自然公園や施設のインタープリター全体計画、個々のインタープリテーションや手法、展示、施設運営、人材育成など。
A	古屋 絢子	全国通訳案内士（英語） 文教大学 講師	インバウンド対応の全般	外国人目線を活かしたコンテンツの活用やプログラム作り、配慮すべき事項についてなど。
A	山崎 宏	（特非）ホールアース研究所 代表理事	インタープリテーション関連	特に施設運営、地域連携、人材育成、団体対応など。
B	江崎 貴久	（有）オズ 代表取締役／海島遊民くらぶ	ガイド事業運営／地域協議体等組織	エコツーリズムによる地域連携地域内連携 農・漁業と観光の連携手法
B	海津 ゆりえ	文教大学 国際学部 国際観光学科 教授	エコツーリズム論／地域観光資源活用／エコツーリズム推進協議会設立等	エコツーリズムの理念・理論／エコツーリズム推進協議会等の設立
B	府川 尚弘	前静岡ツーリズムビューローディレクター／INDIGO 合同会社ディレクター	インバウンド推進／地域連携／観光マーケティング	県・広域連携レベルのDMO 単位での海外プロモーション／DMO と地域事業者の連携手法
B	松田 光輝	（株）知床ネイチャーオフィス 代表取締役	ガイディング／ガイド事業運営／地域協議体等組織	環境保全と利活用にかかる協議体の組織化と運営／ガイド事業における経営・運営・商品開発・ガイド技術等全般のアドバイス
B	松本 毅	（有）屋久島野外活動総合センター 代表取締役	ガイド事業経営	エコツーリズムガイドの技術と担い手育成、ガイド事業運営

●オンライン集合研修について

本研修は、「オンライン会議システム(zoom)」と「動画教材(YouTube)」による自習を組み合わせ、オンラインで開催します。研修の概要は以下の通りです。

1. 研修期間は、11月11日(金)～12月6日(火)です。参加者の皆様が「オンライン会議システム(zoom)」を使用し、実際にお集まりいただくのが「オンライン集合日」です。オンライン集合日以外は、「動画教材(YouTube)」による自習や個別カウンセリングを経て、参加地域(チーム)ごとに行動計画を作成します。
行動計画は、12月6日(火)オンライン全体集合日(2)で、参加地域(チーム)から発表していただきます。
2. 「オンライン集合日」に「オンライン会議システム(zoom)」を使用して、発表や講義を行います。開催日は11月16日(水)(A・Bコース)、11月21日(月)(Bコースが対象)、11月22日(火)(Aコースが対象)、12月6日(火)(A・Bコース)です。この日は必ず参加いただきます。なお、運営の都合上、参加地域(チーム)のメンバーは原則一つの場所に集合し、1台のデバイスでご参加ください。
3. 事前学習期間(11月11日(金)～11月15日(火))、自主学習期間(11月17日(木)～11月20日(日))は、「動画教材(YouTube)」による自習期間です。
4. 集合研修の成果物は、行動計画の作成です。それに向けて、参加地域(チーム)が講師に個別に相談できる「個別カウンセリング」を設定します。期間は11月28日(月)～12月1日(木)の予定です(zoomを使用)。時間の調整は事務局を中心に進めさせていただきます。
5. 本研修は、コース別の設定ではありますが、Aコースのインタープリテーション全体計画は地域づくりにつながります。そして地域づくりを実現するためには、Bコースで取り上げるプログラムづくり、マーケティング、コーディネーター等の考え方が重要になります。本研修はオンラインの利点を活かし、コース別に開催される研修は、オブザーバー参加が可能です。
参加地域(チーム)の関心に合わせ、ぜひ受講をご検討ください。

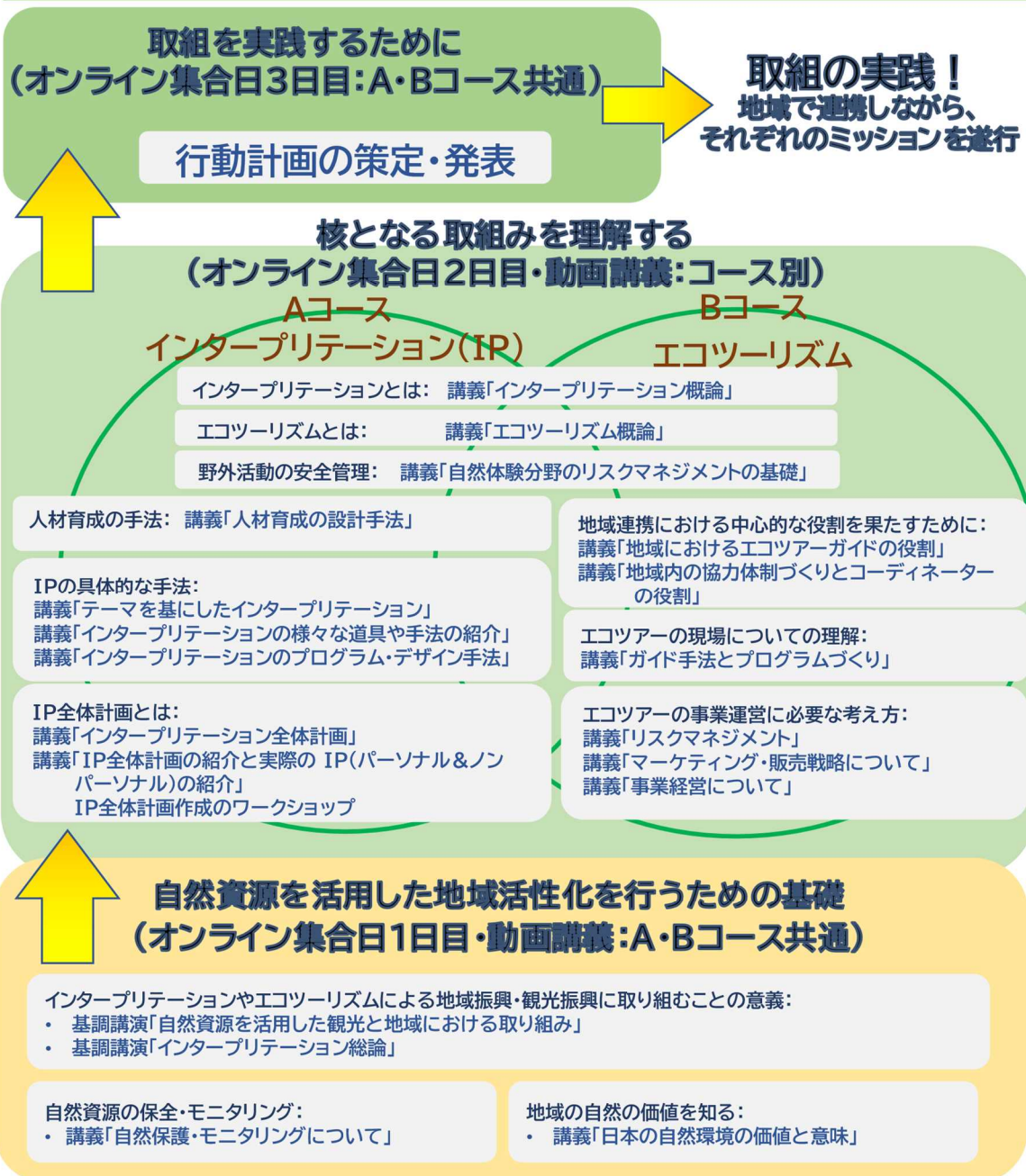
オンライン集合研修の全体スケジュール

日程	内容
11月11日(金)～11月15日(火)	事前学習期間(動画視聴)
11月16日(水) 13:00～18:00	オンライン全体集合日(1) A・Bコース
11月17日(木)～11月20日(日)	自主学習期間(動画視聴)
11月21日(月) 9:00～17:00	Bコースオンライン集合日
11月22日(火) 9:00～17:00	Aコースオンライン集合日
11月23日(水)～12月5日(月)	個別カウンセリング・行動計画作成、発表準備期間
12月6日(火) 10:00～18:00	オンライン全体集合日(2) A・Bコース

環境省人材育成支援事業 オンライン集合研修のカリキュラム

目的:

自然資源を活用して地域活性化に取り組む地域を対象に、国内外のニーズも踏まえながら、ビジターセンタースタッフ(インタープリター)やエコツアー事業者など、地域における持続可能な仕組み構築に向けたキーマンとなる人材の育成支援を行う。



オンライン集合研修の内容

カリキュラムや、講師・講義のタイトルは、変更となる場合があります。

11月11日(金)～11月15日(火)

事前学習期間（5日間）視聴時間 計2～3時間程度	
内容	担当
ABコース必修	
本研修の目指すところ	環境省
自然を守り活かすツール	環境省
講義「日本の自然環境の価値と意味」	田中 伸彦
講義「インタープリテーション概論」	古瀬 浩史
講義「エコツーリズム概論」	海津 ゆりえ
講義「自然保護・モニタリングについて」	横山 隆一
講義「自然体験活動におけるリスクマネジメントの基礎」	佐藤 初雄

11月16日(水)

オンライン全体集合日（1）13：00～18：00 A・Bコース	
内容	担当
オリエンテーション	ファシリテーター
研修の全体像の紹介	環境省
アイスブレイク・自己紹介	ファシリテーター
基調講演「自然資源を活用した観光と地域における取り組み」 （エコツーリズム的な視点）	江崎 貴久
基調講演「インタープリテーション総論～インタープリテーションが広げる地域の可能性～」	西村 仁志
情報交換会（自由参加）18:00頃から45分程度	

11月17日(木)～11月20日(日)

自主学習期間（6日間）視聴時間 各々2～3時間程度	
Aコース必修	
講義「テーマに基づいたインタープリテーション」	古瀬 浩史
講義「インタープリテーションの様々な道具や手法の紹介」	古瀬 浩史・古屋 絢子 鳥屋尾 健・川嶋 直・ 西村 仁志
講義「インタープリテーションのプログラム・デザイン手法」	川嶋 直・古瀬 浩史
講義「インタープリテーション全体計画～概要～」	古瀬 浩史
講義「インタープリテーション全体計画～行動計画とのつながり～」	川嶋 直
Bコース必修	
講義「ガイド手法とプログラムづくり」	松本 毅
講義「リスクマネジメント」	松本 毅
講義「マーケティング・事業経営について」	松田 光輝
講義「マーケティング・販売戦略について」	木村 雄志
講義「事業経営について」	松田 光輝

11月21日(月)

Bコースオンライン集合日 9：00～17：00 (参加を希望するAコースの参加地域（チーム）は、オブザーバー参加が可能)	
内容	担当
講義「地域におけるエコツアーガイドの役割」	江崎 貴久
講義「地域内の協力体制づくりとコーディネーターの役割」	江崎 貴久
トークセッション	各講師／事務局
行動計画作成ワークショップ	各講師／事務局
行動計画の共有とアドバイス	各講師
Bコース情報交換会（自由参加）17:00頃から45分程度	

11月22日(火)

Aコースオンライン集合日 9:00~17:00 (参加を希望するBコースの参加地域(チーム)は、オブザーバー参加が可能)	
内容	担当
講義「人材育成の設計手法」	山崎 宏
講義「インタープリテーション(IP)全体計画」	古瀬 浩史
講義「IP全体計画の紹介と実際のIP(パーソナル&ノンパーソナル)の紹介」	古瀬 浩史、村上 友和
WS「IP全体計画を書いてみる」その1	古瀬 浩史
WS「IP全体計画を書いてみる」その2	古瀬 浩史
行動計画作りへのオリエンテーション	鳥屋尾 健
Aコース情報交換会(自由参加)17:00頃から45分程度	

※WS「IP全体計画を書いてみる」は、当日出席の講師陣が作成をサポートします。

11月23日(水)~12月5日(月)

個別カウンセリング、行動計画作成・発表準備期間(13日間)
個別カウンセリング期間は、11月28日(月)~12月1日(木)を予定。 各講師とチームがアポイントの上、行動計画作成に向けたカウンセリングを行う(各チーム4~5名の講師@45分程度を想定)
行動計画作成・発表準備

12月6日(火)

オンライン全体集合日(2) 10:00~18:00	
内容	担当
作成した行動計画の発表会(Aコース) (Bコースは任意参加)	全講師
昼休憩	
作成した行動計画の発表会(Bコース) (Aコースは任意参加)	全講師
意見交換	ファシリテーター
研修全体のふりかえり	ファシリテーター
閉会式	環境省/事務局

Ⅱ. 応募方法について

(1) 応募書類について

- 応募フォームを、環境省ホームページ、または応募先の事務局（2 頁記載）のホームページからダウンロードの上、電子メールで希望コース（A コース、もしくはB コース）の事務局（2 頁記載）まで提出してください。
- 応募フォームは、参加地域（チーム）の構成員で話し合いの上、ご記載願います。
- 提出された応募書類は本事業に関する目的以外には使用しません。お預かりした個人情報は、「環境省所管事業分野における個人情報の保護に関するガイドライン」に従い管理します。なお、応募書類は返却いたしません。
- 応募書類は日本語でご記入ください。なお、応募フォームの様式は変更せずにご記入ください（記載内容に応じて、枠を広げて構いません）。

(2) 応募締切

令和 4 年 10 月 2 日（日）必着

(3) 応募にあたっての留意点

- 応募に当たっては、事前に所管の自治体とご相談、ご了解をいただいた上でご応募ください。
- 国立公園内に該当する場合は、所管する環境省の出先機関（地方環境事務所、自然環境事務所、国立公園管理事務所、自然保護官事務所等）にも、事前にご一報いただくことをお勧め致します。
- 本研修はチームで応募します。予めチーム内で異なる意見や考えがあれば尊重し合い、お互いに理解し、地域として目指すべき方向性を検討してから応募してください。

A コース担当（50音順）

オンライン集合研修・アドバイザー・動画教材（YouTube）を担当

鳥屋尾 健（とやお たけし）

生涯学習・社会教育を学び、非常勤中学校講師、援農等を経て、2000年から（公財）キープ協会環境教育事業部へ。環境省、林野庁、青年海外協力隊（JICA）等行政～企業・NGO・各種プロジェクト等多方面の人材育成事業に関わる。幼児～シニア・家族、地域～国際、学校、企業、社会教育施設等幅広く自然体験をベースとした学びの場作りにあたっている。山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター及び、山梨県地球温暖化防止活動推進センター センター長 兼任。



西村 仁志（にしむら ひとし）

広島修道大学人間環境学部教授、博士（ソーシャル・イノベーション）。京都 YMCA に勤務の後、1993 年個人事務所「環境共育事務所カラーズ」を開業。自治体や企業、NPO 等の環境学習・市民参加まちづくりのコーディネートや研修会の企画運営などを行ってきた。2006-2011 年は同志社大学大学院総合政策科学研究科准教授。2012 年より広島修道大学に着任。編著書に「ソーシャル・イノベーションが拓く世界」（2014 年、法律文化社）ほか。



古瀬 浩史（ふるせ こうじ）

20 代～30 代は、自然公園施設等にインタープリターとして勤務していました。その経験を活かして、インタープリテーション計画、プログラムの開発、インタープリター育成、それらに関係した地域振興などの仕事に携わってきました。現在は、大学にてインタープリテーションや環境教育を教えています。海域の自然をテーマにした環境教育も関心の一つです。日本インタープリテーション協会代表理事、帝京科学大学教授。



古屋 絢子（ふるや あやこ）

全国通訳案内士（英語）・文教大学講師・合同会社観光ラボ代表。お茶の水女子大学大学院修了、米国セントラル・フロリダ大学大学院科目履修（観光経営学）。日本科学未来館、東京大学を経て2013年 通訳案内士試験合格。7年間で約700組4000人の外国人観光客を全国46都道府県に案内。さらに大学、全国各地の自治体主催のガイド養成講座、観光事業者向け研修等にて講師をつとめ、観光分野の人材育成に力を注ぐ。「訪日外国人観光客の本音がわかる」強みを生かし、インバウンド観光アドバイザーとしても活躍。観光庁「インバウンド対応能力強化研修」1級講師。観光庁「世界水準のDMO形成促進事業」外部専門人材。



川嶋 直（かわしま ただし）※事務局だが、講師を兼ねる。

公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）主席研究員、NPO法人自然体験活動推進協議会理事、一般社団法人日本インタープリテーション協会理事。1980年に山梨県清里の財団法人キープ協会に入り、まもなく「自然体験型環境教育事業」を組織内で起業した。2014年6月からJEEF理事長。著書に「就職先は森の中～インタープリターという仕事」（1998年 小学館）、「KP法～シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション」（2013年、みくに出版）、「えんたくん革命」（2018年5月、みくに出版）等がある。



オンライン集合研修・アドバイザーを担当

山崎 宏（やまざき ひろし）

NPO法人ホールアース研究所代表理事。静岡県出身。環境NGO研究員、専門学校講師を経て、2007年4月よりホールアース自然学校へ。幼少の頃は伊豆・箱根・富士山の自然を遊び場にして過ごし、学生時代より一貫して、環境教育・エコツアー・里山保全分野に関わり続けている。ホールアースでは、富士山麓での自然ガイドをベースに、企業の環境活動支援や行政が主催する環境関連研修の運営・講師などを多数担当。近年は組織マネジメントにも力を注ぐ。2014年4月より現職。



オンライン集合研修を担当

村上 友和（むらかみ ともかず）

株式会社自然教育研究センター多摩・山梨地域エリアマネージャー。東京都生まれ。学生時代は野生動物学を専攻。並行して行っていた自然保護ボランティアで出会ったインタープリターを志す。株式会社自然教育研究センターに入社後、都市公園での勤務を経て、2011年4月より高尾ビジターセンターでチーフインタープリターとして勤務。自然観察プログラムの企画や、施設の管理計画の作成、人材育成を行う。冬季は、野鳥を観察しながら高尾山頂まで通勤する楽しい毎日。



動画教材（YouTube）を担当

佐藤 初雄（さとう はつお）

NPO 法人国際自然大学校理事長。他に NPO 法人自然体験活動推進協議会代表理事、自然・文化・創造研究所フェロー、公益社団法人日本キャンプ協会監事なども務める。1983 年 4 月に国際自然大学校を設立。「次代を担う自立した青少年を育成するには自然体験活動が不可欠」として「教育・環境・健康・国際・地域振興」をキーワードに自然体験活動の提供を続ける、国内における野外活動指導の第一人者。著書に「社会問題を解決する自然学校の使命」（2009 年、みくに出版）、監修に「13 歳までにやっておくべき 50 の冒険」（2016、太郎次郎社エディタス）がある。



オンライン集合研修・アドバイザー・動画教材（YouTube）を担当

江崎 貴久（えざき きく）

（有）オズ（海島遊民くらぶ）代表

1997 年、有限会社菊乃設立、代表取締役就任。観光業のあるべき姿を見直し、地産地消を基本に旅館海月の経営を開始。2001 年、（有）オズを設立、離島をフィールドに自然や生活文化を通して環境と観光、教育と環境を一体化させたエコツアー「海島遊民くらぶ」を展開。日常を観光資源化したエコツーリズムに取り組む民間資本 100% 会社の先駆的な存在となっている。特に民間でありながら漁業協同組合との連携をしている点や離島振興に取り組み「島っ子ガイド」を定着させている点、それによって行政の取り組みへと発展した事例が評価され、環境省第 5 回エコツーリズム大賞、第 10 回エコツーリズム大賞特別継続賞、地域づくり総務大臣賞などを受賞している。現在、中央環境審議会臨時委員や国立公園満喫プロジェクト有識者会議委員、地元では三重県観光審議会委員、鳥羽市エコツーリズム推進協議会会長、鳥羽市観光協会副会長を務め、次世代のリーダー・人材育成・地域全体での資源活用のあり方を研究しながら実践するとともに、各地の地域の活性化に取り組んでいる。



松田 光輝（まつだ みつき）

株式会社 知床ネイチャーオフィス 代表取締役、知床斜里町観光協会副会長、環境省エコツーリズム推進アドバイザー、NPO 法人日本エコツーリズム協会理事等。1969 年知床生まれの知床育ち。（財）日本野鳥の会、（財）知床財団を経て、2006 年 4 月に（株）知床ネイチャーオフィスを設立。知床ではじめて自然ガイドを事業化し、知床にエコツアーを定着させる。シマフクロウの保護増殖事業や野生生物の調査研究事業にも従事し、研究者の視点とナチュラリストの視点を活かし、自らも自然ガイドとして活躍する。北海道アウトドア資格認証制度やエコツーリズムに関する各種の事業にも専門家やコーディネーターとして関わる。



松本 毅（まつもと たけし）

有限会社 屋久島野外活動総合センター 代表取締役

屋久島観光協会会長、屋久島エコツーリズム推進協議会副会長、屋久島町観光基本計画策定委員会副会長、環境省エコツーリズム推進アドバイザー、NPO 法人日本エコツーリズム協会理事等。1957 年神戸市生まれ。東京水産大学で潜水部に入部、ダイビングに出会う。東京で就職するが 1987 年脱サラして屋久島に移住。ダイビングショップ「ワンダーランドダイバース」を開業。屋久島海洋生物研究会を発足。1993 年仲間 3 人と屋久島野外活動総合センターを設立。屋久島で初めて山・海・川をフィールドにしてエコツアーを始める。主な講義分野：ガイド技術、解説の方法論 等



木村 雄志（きむら ゆうじ）

WEB 解析士／アウトドアビジネスアドバイザー

アウトドアツアー専門の予約サイト「そとあそび」の元営業責任者。予約サイトに掲載するコンテンツを取材するため、延べ 300 社、500 コース以上の膨大なツアーに参加した”日本で最も多くアウトドアツアーに参加した人”。体験したアクティビティはパラグライダーからセグウェイ、ダイビングまで合計 42 種類以上にも及び、北海道から沖縄まで、日本全国の自然環境と魅力を活かしたアウトドアツアーとそのガイドさんにジャンルを問わず詳しい。



『アウトドアツアービジネスを科学する』をテーマに、複数のアクティビティ事業者の WEB マーケティングに従事。自社サイトからの集客はもとより、予約サイトからの集客、SNS からの集客、リピーターの確保、ユーザー心理を突いた集客のための TIPS なども含めた、収益最大化のための総合的なアドバイスを行っている。WEB 解析士としての知識や、予約サイトに 4 年半勤めた経験を軸にしつつも、施策はデータマーケティング一辺倒ではなく、常にガイドさんに対するリスペクトを持ち、ガイドさんの想いを最大限尊重することを大切にしている。『良いツアーとは何か？』が研究テーマで、観光だけではなく、生涯学習や自然教育の側面による集客、インバウンドの集客も視野に入れ、参加前の心理（期待値）、参加後の心理（満足度）、価値（価格）を総合的に研究している。日本セーフティカヌーイング協会アドバイザー／元モンベル社員。

動画教材（YouTube）を担当

海津 ゆりえ（かいづ ゆりえ）

文教大学 国際学部 教授

立教大学理学部卒業。農学博士。1991 年より、環境庁による「西表島エコツーリズム開発プロジェクト」、1992 年より岩手県二戸市における「宝探しプロジェクト」に携わる。1995 年地域計画・エコツーリズムを業務とする、有限会社資源デザイン研究所を設立、2007 年より現職。環境省エコツーリズム推進会議、国土交通省 小笠原開発審議会や地方自治体の委員などを歴任。日本エコツーリズム協会設立メンバーの一人。フィールドは二戸市、裏磐梯、湘南、奄美、沖縄県南大東村、西表島、小笠原諸島、ガラパゴス、フィジー、ボルネオなど。NPO 法人日本エコツーリズム協会理事、日本観光研究学会副会長。

主な講義分野：エコツーリズム論、地域の宝探し論



田中 伸彦 (たなか のぶひこ)

東海大学観光学部教授

東京大学農学部林学科卒、博士(農学)。(独)森林総合研究所上席研究員、林野庁研究・保全課研究企画官などを歴任。専門は、観光学、森林風致計画学、造園学、レジャー学。東京都農林漁業振興対策審議会専門員、つくば市緑の基本計画策定委員、林野庁林業普及指導員資格審査試験委員などを歴任。国際森林研究機関連合 (IUFRO) 自然地域観光部門副委員長、日本レジャー・レクリエーション学会常任理事、日本造園学会関東支部長、農村計画学会評議員などを務める。[著書]『丹沢の自然再生 (J-FIC)』、『教養としての森林学 (文永堂)』、『魅力ある森林景観づくりガイド (全林協)』など



横山 隆一 (よこやま りゅういち)

Office Yokoyama 主宰、(公財)日本自然保護協会(NACS-J)参与、日本イヌワシ研究会副会長、奥根自然センター代表。1958 年、東京生まれ。1983 年、高校教員より NACS-J 研究員。2000 年より常務理事、2019 年から現職。NACS-J では、『自然観察指導員』を中心とした環境教育指導者の育成、自然林保護・サンゴ礁生態系保全・猛禽類生息地保護・国立公園の保全、アセスメント制度改善等の研究と保護への応用に従事。毎年 10-15 件程度の講義・講演。「野外における危険な生物」・「自然観察ハンドブック」・「指標生物-自然をみるものさし」・「昆虫ウォッチング」(以上、平凡社)。「自然の見方が変わる本」(2007 山と溪谷社)。「エコ・ツーリズム研修/ヨーロッパアルプス編、スリランカ編」の制作・執筆など。林野庁・林政審議会、林野庁・保護林管理委員会、環境省・エコツーリズム検討会、尾瀬国立公園協議会等、政策検討会に参加多数。



次年度のインバウンド講習講師を担当(予定)

府川 尚弘 (ふかわ なおひろ)

ツーリズムデスティネーションマーケティングを専門とする INDIGO LLC 代表。国内外の旅行需要をデスティネーションと地域経済につなぐため「心の開国」を理念として活動している。「旅」を媒介とする質の高い暮らしと地域の豊かさが持続する「ツーリズム」(循環エコシステム)への貢献を目標とし、旅行者と地域/住民双方のよこびを実現するための戦略提案、マーケティング実践、市場流通商品企画開発支援、メディア広報、顧客コミュニケーション、マーケティング人材支援、地域ツーリズムイベントや観光資源調査などの事業を北米、オセアニア、ヨーロッパ、アジアの専門家パートナーと協働している。1994 年から 2004 年まで国際観光振興会(JNTO。現 日本政府観光局)にてインバウンド事業に従事。JNTO 在籍中、国際機関日本 ASEAN センター出向し、現地観光人材育成事業等を担当した。2004 年からツーリズムマーケティング会社等にて外国政府観光局マーケティングディレクターや海外クルーズ会社イベント広報、海外観光資源調査や離島体験商品企画支援等を担当。2017 から 2021 年まで静岡ツーリズムビューロー(TSJ)ディレクター(日本版 DMO 公募採用)。(一社)日本ロードトリップ副代表理事。青山学院大学地球共生学部講師(非常勤)。



Q&A コーナー！ 本事業に関する質問と回答

Q：平成 28 年度まで行われていた「エコツーリズムガイド等養成研修」及び「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」と関係があるのでしょうか？

A：平成 28 年度まで行われていた両事業の後継事業です。本事業の事前アドバイザー派遣は、「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」に相当し、本事業の集合研修は、「エコツーリズムガイド等養成研修」のスキルアップ編に相当しワークショップを充実させたものです。

Q：主な活動フィールドが国立公園ではないのですが応募は可能でしょうか？

A：いずれも可能です。自然資源（里地・里山などの自然を含む）を活用した地域振興、観光振興を目指す地域であれば、国立公園内外に関わらずどこでも対象です。

Q：募集対象となる「地域」とは、どのような範囲でしょうか？

A：「県境を越えた自然公園全体」～「ひとつの集落」まで、およそ「地域」と呼べる単位です。

Q：フリーで自然のガイドをしています、個人での応募は可能でしょうか？

A：事業全体では、アドバイザー派遣の地域側での受入や、地域の課題解決のための行動計画の作成等を行います。そこで応募は必ず地域の行政担当者に相談のうえ、できるだけサポート側の関係者を含めた、2～3 名程度のチームを構成し、ご応募願います。

Q：自分たちの活動（事業）をサポートしてくれる行政の部署、担当者などはどのように見つけられればよいでしょうか？

A：応募しようとする者が活動する自治体の地域振興・観光・産業・環境部署、最寄りの環境省自然保護官事務所などの担当者等に協力を打診してください。あるいは、観光協会や商工会の方がサポート側のメンバーとして参加することも可能です（3 ページの図を参照）。

Q：観光課の職員です。一緒に参加したいガイド等が 10 名ほどいるのですが参加可能でしょうか？

A：原則として、中核となるスタッフ・事業者側の方＋サポート側の方＝合計 2～3 名程度のチームでの応募をお願いします。若干名であれば、オブザーバーの参加は可能です。

Q：集合研修前の事前アドバイザー派遣は、応募すれば必ずアドバイザーに来ていただけるということではないのでしょうか？

A：募集上限（A・B 各コース 6 地域（チーム）程度ずつ、計 12 地域（チーム）程度）を超えた場合は、書類選考をします。

Q：サポート側のメンバーは、市町村ではなく都道府県の方でもよいですか？

A：サポート側のメンバーは、都道府県でも構いません。なお、その場合は、都道府県や市町村との関係性などがわかる体制図やビジョン等を参考にお示しください。

Q : 同一地域から A コースと B コース両方に応募することは可能ですか？

A : チームを構成するメンバーが異なる 2 チーム（例えば、A コースでスタッフ 2 人と行政 1 人、B コースで事業者 2 人と観光協会 1 人）で応募していただくのは可能ですが、なるべく多くの地域からの参加を受け入れたいと考えています。応募が多数だった場合は、1 地域 1 チームでお願いさせていただくことを、あらかじめご了承ください。

Q : A コース、B コースそれぞれ対象となるメンバーで構成されるチーム（例えば、ビジターセンタースタッフ 1 人、エコツアー事業者 1 人、行政 1 人の 3 人）で参加して、集合研修で A コースと B コースに分かれて参加することはできますか？

A : カリキュラムでは、参加地域（チーム）ごとにグループワークや、チームが所属する地域について検討する場面があります。原則は、A コース、B コースどちらかを選んで応募をお願いいたします。

Q : A、B どちらのコースに応募して良いか迷っているのだが・・・

A : 事前に、応募の目的や地域の課題等を整理し、それぞれの事務局に相談することをお勧めいたします。なお、応募フォームへの記載内容等を確認の上、よりふさわしいコースを、事務局からお勧めする場合があります。